

平井尚志の なめとこ山通信



第70回 私の友人を紹介します

皆さん、こんにちは。毎日毎日、猛暑の日々でしたが、いかがお過ごしですか。ここにきてようやく秋らしくなってきたなあと、油断していたらまた、真夏日になりそうです。おまけに、しぶといコロナウイルスや、インフルエンザウイルスまで流行の兆しがあるようです。どうぞ皆さん、引き続き健康に留意して、お元気にお過ごしください。

さて、今回の「なめとこ山通信」は、気が付くと70回記念ではありませんか。(一つくらいごまかしはあるかもしれませんが。)こうなったら、100回を目指そうかな。いやいや、あと30回は、計算だとあと8年くらいだから、そんなには続けていられないな、とか、自分なりに少々考えました。しかし今回は、とくに70回だからということも無く、淡々と毎度のぐだぐだ文です。お時間ありましたら、どうぞお付き合いください。

私の友人に、安曇潤平(あずみ じゅんぺい)さんという方がいます。まあこれはペンネームなのですが、昔から私は「潤平さん」と呼ばせてもらっています。今日はこの、潤平さんのことを皆さんに紹介しようと思います。

私と潤平さんとの出会いは、インターネット上でした。かれこれもう、二十数年前のことでしょうか。はっきりとは覚えていません。初代のiMac(あの、かわいいスケルトンのマックです。懐かしい。)が発売されたのが1998年8月だそうです。当時私も、すぐにそのスケルトンのiMacを手に入れて、友達に教わりながら自分のHP(ホームページ。今でいう、ウェブサイト)を作り始めたのでした。その当初から、HPには「すべての高い山に登れ!」とタイトルをつけ、山行記録などを綴っていました。私の30代前半の頃ですから、バリバリに山歩きをしていたときですね。HPにあげた山行記録は、残っているものもあるのですが、その他に、見た映画や読んだ本の感想など、それこそ徒然に書きちらかしていたものは、今ではほとんど散逸してしまいました。最近時間があって、昔のことをほじくり返してみても、2001年くらいからの文章が出てきました。(2002年の1月が、敗退したアコンカグア登山です。)潤平さんとの出会いは、その頃です。潤平さんが私のHPを見てくださっていて、私も、潤平さんのHP「北アルプスの風」を、岳人として楽しく拝見していたのでした。

さて、2001年の連休に、自称山ヤの私は、徳本峠から上高地へ抜けようと、新島々から出発したのですが、慣れない雪道のために道に迷い、危うく遭難しかけて敗退したことがありました。その話をHPに載せたところ、潤平さんもほぼ同じ時に、徳本峠へ向かった途中で道に迷い、同じように敗退して下山していたことがわかったのです。それで、今度いつか会ってお話ししましょうということになり、いわゆるオフ会を開くことになりました。そこで初めて、私は潤平さんとお会いしたのでした。実はその時に、他にもそのオフ会に参加した人がいました。もしかしたら、あなたの知っている人かもしれませ

んねえ……。はは。そうです、やはりインターネットで知り合っていた、私の妻となる人です。なので潤平さんと知り合わなかったら、今の私の生活はなかったかもしれないのです。潤平さんとはそれ以来、街で飲んだり、花見をしたりという、飲み友達になりました。



↑ 結婚した時に潤平さんからいただいたもの

私が、甲斐駒ヶ岳が好きで、勝手に「甲斐駒ファンクラブ」というものを作ったときには、潤平さんは主要メンバーで、同じようにインターネット上で知り合った山関係のHPの管理人が集まって、皆でワイワイとあちこちに出かけて飲み会をしたものでした。それが、インターネットでの発信が、HPというよりブログに代わり、古い時代の管理人は次第にネットから離れていき、私も色々あって山に登らなくなり、パソコンよりもスマホの時代になり、そうしてだんだん、ネットで知り合った山友達とは疎遠になってしまったのです。それはなんだか、あつと言う間の時代の流れでした。

それでも細々と、私はインターネットから発信する舞台にしがみついている、ブログをやってみたり、フェイスブックに登録してみたりと、わりと様々なことに手を出していました。そうする中で、疎遠になっていた潤平さんが、今どうしているかということは、ネット越しに伝わってきたのです。潤平さんはHPの時代から、自作の山の怪談を少しずつ発表していたのですが、それが怪談専門雑誌の編集長の目に留まり、その怪談専門雑誌で連載を持つようになっていたのです。そして最初の単行本『赤いヤツケの男』が、2008年2月にメディアファクトリー幽ブックスから出版されました。その頃はなんとなく、もう潤平さんは安



↑ 『山の霊異記』 角川文庫から

曇先生ですから、いっそう遠い存在になってしまったような感じにもなりましたが、潤平さんが有名になったおかげで、web を通してどうしているかがわかるようにもなったのでした。もちろん私も『赤いヤツケの男』を、買って読みました。ただ怖いだけではなく、潤平さんの優しい一面も見え隠れする、不思議な怪談だなあと思ったりしました。それからしばらくして、やっぱりだんだんと潤平さんの姿がネット上からいなくなることもあって、もう作品を発表することはないのかなあと思っていたのが、この何年かです。しかし、ここ最近になってまた、活発にお仕事をしている様子を伝え聞いたのです。どうやら、怪談師として講演に呼ばれたり、オカルトエンタメ大学なる YouTube チャンネルで授業を持ったり、一番最近のニュースは、角川文庫から出ている『山の靈異記 黒い遭難碑』が重版を重ねて、9月には第6版が出たということでした。凄いですね。潤平さんには、コアなファンの人がいるのだなあと思っています。

最近の潤平さんは、Twitter (「X」って名前になっちゃいましたね。) で盛んに情報を発信しています。怪談を、というよりは、好きな釣りの話や、料理の話題なんかが多い感じですか。潤平さんが食べた蕎麦のことを載せていたのを見たときに、私がつい蕎麦情報のコメントを書き込みした時にはすぐ反応してくださり、気軽に返事をくれたのでした。懐かしい、変わらない潤平さんが、そこにいる気がしました。久しぶりに会いませんかと、誘ってみようかと思っています。ただ、作家活動が順調そうで、加えて怪談師としての仕事もあるようで、かなり忙しそうではあります。それでも、またゆっくり飲みながら、くだらない話をしてみたいなあと思っています。

いずれそのうち、潤平さんがこのなめとこ山通信に登場するときに、来るかもしれません。どうぞ、請う、ご期待。ではまた、次回。